綜合諷刺雑誌 VAN 復刻版

全9巻・別冊1

1946年5月▶1949年9月

編集＝伊藤逸平

戦後の混乱の中、政治・経済・社会のあらゆる腐敗に対し、追求の前衛となるべく躍動した綜合諷刺雑誌『VAN』。全29冊を9巻に合本して復刻！

◉解　題　石川　巧

◉揃定価　本体72、000円＋税

〈第1回配本〉

定価　本体32、000円＋税　2022年12月刊

〈第2回配本〉

定価　本体40、000円＋税　2023年6月刊

三人社

綜合諷刺雑誌 VAN 復刻版概要

◆発　行　イヴニング・スター社他

◆揃定価　本体72、000円＋税〈分売不可〉

◆解　題　石川　巧（立教大学文学部教授）

◆巻　数　全9巻・別冊1

◆別　冊　解題・総目次・索引

◆体　裁　B5判・並製・全29冊を9巻に合本

◆原本提供　石川　巧

配　本	定価・ISBN	復刻版巻数	収録原本
第1回配本 2022年12月	本体32,000円+税 ISBN978-4-86691-579-1	第1巻	1号～3号
		第2巻	4号～6号
		第3巻	7号～9号
		第4巻	10号～12号
第2回配本 2023年6月	本体40,000円+税 ISBN978-4-86691-580-7	第5巻	13号～15号
		第6巻	16号～19号
		第7巻	20号～23号
		第8巻	24号～26号
		第9巻	27号～29号
		別冊	

◆主要執筆者

青野　季吉　河野　鷹思　中島　健蔵
赤松　俊子　近藤日出造　中野　好夫
秋好　聲　今　日出海　新居　格
安西　冬衛　坂口　安吾　野坂　参三
石川　欣一　里見　弴　鳩山　一郎
伊藤　逸平　佐野　学　花森　安治
岩上　順一　式場隆三郎　羽仁　五郎
上村甚四郎　獅子　文六　平野義太郎
瓜生　忠夫　柴田錬三郎　福原麟太郎
江戸川乱歩　高倉　テル　水谷　準
大下宇陀児　武谷　三男　村山しげる
大槻　憲二　田中　英光　室伏　高信
岡本　潤　谷内　六郎　八木　秀次
小川　武　徳永　直　山之口　獏
小野佐世男　堤　寒三　横溝　正史
風間　新人　津村　秀夫　横山　泰三
加藤　芳郎　徳川　夢声　横山　隆一
木々高太郎　徳田　球一　渡辺　一夫
久米　正雄　永井　辰男　渡辺紳一郎

関連図書

柳瀬正夢全集

柳瀬正夢全集刊行委員会 編

◉巻　数　全4巻＋別巻1
◉体　裁　A5判・上製・各巻平均650頁
◉定　価　第1巻のみ本体15、000円＋税
　他の4巻は本体18、000円＋税
◉揃定価　87、000円＋税
◉推　薦　井出孫六・浦西和彦・及部克人

美術運動 復刻版

日本美術会機関紙(誌)［1947年～1969年］

◉巻　数　全6巻＋別冊1
◉解　題　足立元・池上善彦・武居利史・
　鳥羽耕史・白　凛・宮田徹也
◉体　裁　A4判・並製・総1、872頁
◉揃定価　本体価93、000円＋税

新生活 復刻版

新生活社発行［1945年～1948年］

◉巻　数　全3巻
◉解　題　石川巧
◉体　裁　A5判・B5判・上製・総約900頁
◉揃定価　本体価54、000円＋税
◉推　薦　宗像和重

現　在 復刻版

現在の会 編［1952年～1955年］

◉冊　数　全2巻＋別冊1
◉解説・解題　鳥羽耕史
◉回　想　小田三月
◉体　裁　B5判・上製・総498頁
◉揃定価　本体30、000円＋税
◉推　薦　池田龍雄・成田龍一

三人社
〒606-8351
京都市左京区岡崎徳成町29-3　岡崎ミントビル
電話 075-762-0368　FAX 075-762-0369
E-mail:office@3nin.jp　https://3nin.jp/

●表示はすべて税別

ご注文は書店様または直接上記までお申し込みください。

2022/9

刊行に際して

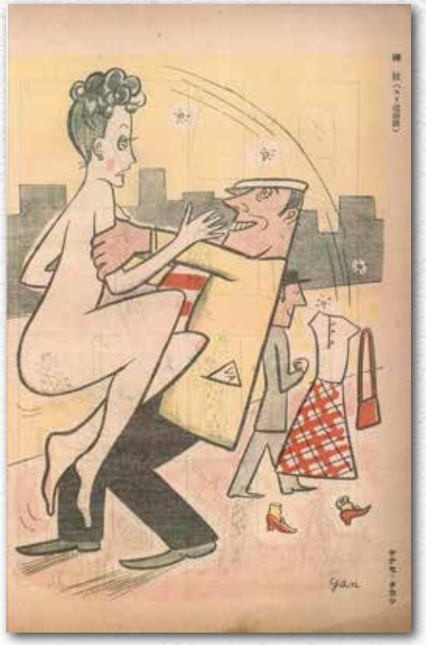
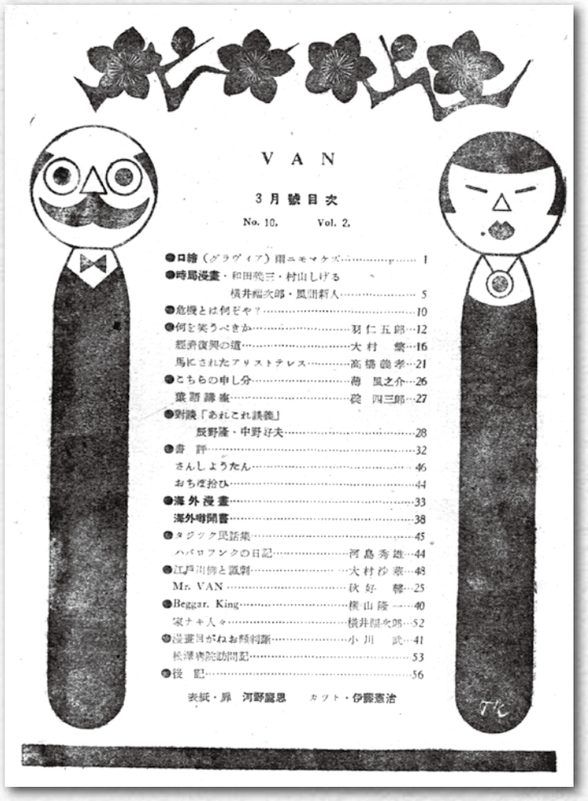
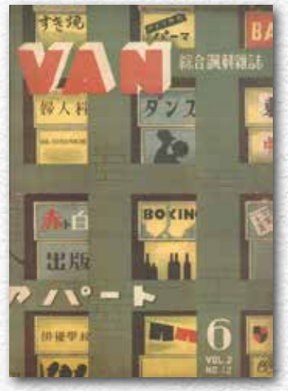
石川　巧〈立教大学文学部教授〉

『VAN』は1946年5月に創刊された綜合風刺雑誌である。のちに日本のアイビー・ファッションの草分けとなる石津謙介のアパレル企業「VAN Jacket inc」にその名が引き継がれるこの雑誌は、美しい画像と斬新なデザイン性において他を圧倒するものだった。

漫画、論説、読物を三本柱に構成された誌面には安定感があり、読み応えのある作品、記事が並んでいた。1949年9月の第4巻第3号まで、合計で29冊を世に送り出しているが、当時、雨後の筍のように氾濫した読物雑誌のなかでこれほど内容が一貫していてブレない編集体制を維持していた雑誌は他にない。

『VAN』を成功させた伊藤逸平（1912～1992）は、写真評論家としても活躍した人物であり、戦前に最後まで残った写真雑誌『写真科学』の編集長だったことでも知られている。戦後は『CAMERA』（『写真科学』の後継誌として1946年1月に創刊）の編集を手がけるとともに漫画評論家の先駆者として活躍し、谷口六郎をはじめとする多くの書き手を育てている。『VAN』は、その伊藤が実業家・上村甚四郎のイヴニング・スター社と組み、豊富な資金と人脈を駆使して編集したものであった。

創刊号の巻頭に「――VAN創刊にあたり――私の言ひ度ひ事」を書いた上村は、諷刺は「正しい批評的態度」によって始めて力をもつと訴え、「〝VAN〟は政治、経済、社会の汎ゆる腐敗面に対する力を持つた注射、つまり現象の歴史的過程に対する追究を命ぜられた尖兵であり前衛であらねばならぬ」と訴えているが、その自負と責任感は記事の端々にあらわれている。

また、この時期のイヴニング・スター社は、『VAN』の他に『黒猫』『風刺文学』（のち『人間喜劇』に改題）、科学雑誌『ポピュラ・サイエンス』などを発行しており、銀座の交詢社ビル5階のオフィスには社員60名がいたというが、そうしたスケールメリットを活かし、作家、漫画家、文筆家はもちろんのこと写真家、デザイナーなどにも幅広い人脈をもっていた。そこから巣立っていった若き才能は、幅広い領域で活躍した。

この雑誌が復刻版として甦ることによって、戦後占領期における日本の芸術表現運動の実相が見えてくるはずである。